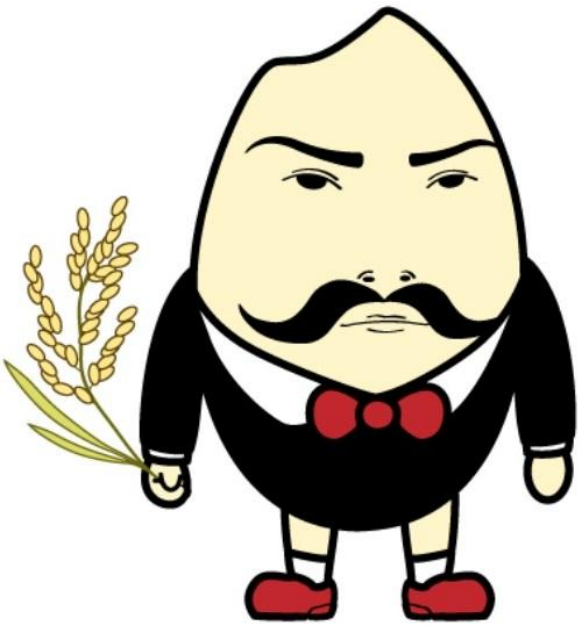
第６回　おおさき作文コンクール

入 賞 作 品



吉野作造記念館　公式マスコット

ライ造くん

日本のお米と民主主義を守る紳士。大崎市の中学生が考案したキャラクターです。

主　催　ＮＰＯ法人古川学人

表彰式　2026 年（令和 8）11 月 29 日（日）

吉野作造記念館

審査結果

中学校の部

最優秀賞　より良い大崎市にするために
千葉久瑠実（古川中学校１年）

優秀賞　窓から見える田んぼで見つけた
大崎の宝物
鈴木耀太（古川中学校２年）

奨励賞　より良い大崎をつくるために、
私たちにできること
眞壁ゆかり（鹿島台中学校１年）

奨励賞　温泉とお米の旅
菅野英心（古川中学校１年）

奨励賞　より良い大崎をつくるために
わたしたちにできること
伊藤由姫乃（古川中学校１年）

奨励賞　大崎市を創る宝
芳賀香愛美（古川東中学校２年）

小学校の部　応募なし

大正デモクラシー賞
私が吉野作造について考えたこと
佐藤愛莉（鹿島台中学校１年）

講評

第６回おおさき作文コンクールは、小学生（５・６年生）、中学生を対象に作文を募集し、計116作品の応募があった。今年度のテーマは、テーマ①「よりよい大崎をつくるためにわたしたちにできること」、テーマ②「あなたが考える『大崎の宝』」で、上記①②いずれか、または両方にそった内容とした。

３名からなる審査委員会により、基本的な文章能力、テーマとの整合性、着眼点、論理性、独創性などの点を総合的に評価する形で厳正な審査が行われ、最優秀賞、優秀賞、奨励賞、大正デモクラシー賞を選出した。

中学校の部は、**「より良い大崎市にするために」千葉久瑠**

実（古川中学校１年）を最優秀賞とする。筆者自身が大崎市に移住して経験したことや感じたことを具体的に踏まえながら、将来もこの街の市民でありたいという意志を、しっかりとした構成で率直に清々しく書いた点を評価した。

優秀賞には**「窓から見える田んぼで見つけた大崎の宝物」鈴木耀太（古川中学校２年）**を選出する。大崎耕土の自然の美しさを、シンプルな言葉でまるで目に浮かぶように描写した文章力を評価した。

奨励賞として以下の４作品を選出する。**「より良い大崎をつくるために、私たちにできること」眞壁ゆかり（鹿島台中学校１年）**は、実体験を元にした具体性と、丁寧で読みやすい文章力の高さを評価した。**「温泉とお米の旅」菅野英心（古川中学校１年）**は、自身の家族旅行の体験から発想を広げた、引き込まれる作文であると評価した。**「より良い大崎をつくるためにわたしたちにできること」伊藤由姫乃（古川中学校１年）**は、自身の実感や考えを素直に、分かりやすく書いた点を評価した。**「大崎市を創る宝」芳賀香愛美（古川東中学校２年）**は、文章力と、若者の活気という着眼点を評価した。

全応募作品の中から「独自の民主主義的な視点で取り組んだ」１作品に贈られる大正デモクラシー賞は、**「私が吉野作造について考えたこと」佐藤愛莉（鹿島台中学校１年）**とする。吉野作造の思想や行動をよく勉強し、自分自身に引きつけて、自分の言葉で語ることができている点を評価した。

今年度は応募総数が過去最多であったが、飛びぬけた作品は少なかった。入賞に至らなかったものの、受賞作と比べて遜色ないものも多くあった。

全体を通して気になった点として、「ゴミ拾い」や「あいさつ」をテーマに取り上げた作品が大半を占めた。これはここ数年共通の傾向でもある。こうしたテーマ自体が悪いわけではないが、いずれも大崎に限らず、全国共通の問題である。実際に作品の多くは一般論的な、似通った内容となってしまっていた。また、それらのテーマを掘り下げずにただ次々と列挙しただけの作品も目立った。善い事を列挙するのではなく、一つに絞った独自のテーマを掘り下げる方が、良い作文を書くことにつながるはずだ。

本コンクールは毎年一貫して「大崎」に関連したテーマで作品を募集している。大崎ならではの魅力や課題を、自分で考え自分の言葉で語った、自由で独創的な作文を今後も期待したい。

※作品の掲載にあたり、あきらかな誤字・脱字等は修正しましたが、可能な限り原文を尊重しました。各部門最優秀賞、大正デモクラシー賞受賞作品は、『吉野作造記念館だより』35号（２０２７年４月発行予定）にも掲載されます。

中学校の部　最優秀賞

より良い大崎市にするために

古川中学校　1年　千葉　久瑠実

「やっと一歩踏み出せたね。」

今年の三月十七日、大崎市に移住しました。この日は、とても嬉しい希望の記念日となりました。理由は、大崎市は規模が大きくて、人口も多く発展していると思ったからです。以前の場所は、空気がきれいで自然も多く住み良い場所でしたが、その分、やや閉鎖的な感じがしていました。

調べてみると、大崎市には温泉地、歴史や文化施設などの観光地も多くありました。また、古川を拠点に高速道路も近く、新幹線や電車があり、とても利便性があることも分かりました。まるで市全体がアミューズメントパークのようでした。何度か来ていた場所なのに、どうして私は、この良さを知らなかったのだろう……ふと、昨年六月の大崎市で開催された「刀剣展」を見学に行った事を思い出しました。順番待ちの間はインターネットで受付番号を見ながら、自由に移動が出来ました。観光をしてみようと思い配布された、町歩きマップを見ると気になる場所がありました。ですが、祥雲閣と吉野作造記念館は市役所から徒歩三十分と書いていて、私の足では無理だとあきらめた残念な思い出でした。私と同じように市外から来た人達は細かな移動の方法が分からずに「暑い」と言いながら、その場にしゃがんでいました。結局、市役所から動けませんでした。「おおくりから」「乱藤四郎」が見ることが出来て嬉しかったものの、他の場所に行くことはありませんでした。

考えてみると不思議です。昔は恐れられていた刀は、時代の流れの中で「廃刀令」で廃止され、今は国宝として納められています。人々は、くわから機械へ、ペンからパソコンへ、生活スタイルも変わっていきます。この先、世界、時代がどの様に変わるか分かりません。私の人生も勉強のために一度は離れるかも知れません。ですが、必ず帰ってきます。それは、大崎市に憧れて移住した日の私の嬉しさは変わらないからです。私の故郷は大崎市です。だから、この大崎市がずっと続いて欲しいと思います。残したいと思

います。今すぐには大きな政策などは出来ませんが、一市民として、まずは大崎市をもっと知りたいと思います。調べた場所に直接行って、実際に見て、実際に触れてみる、食べてみる、体験をしてみようと思います。私が、これから出会う人達に、大崎市を伝えられるように、訪れてみたいと思ってもらえるように。私と同じ、嬉しい日になってもらえるように。

この気持ちこそが、大崎市民となれた私のより良い大崎市にするための、はじめの一歩です。

中学校の部　優秀賞

窓から見える田んぼで見つけた大崎の宝物

古川中学校　２年　鈴木　耀太

我が家の食卓にのぼる、炊きたての白いご飯。お茶碗から立ちのぼる湯気とともに、甘い香りがキッチンに広がります。口に運べば、一粒一粒がしっかりとしていて、噛むほどに旨味が染み出してきます。

毎日のように何気なく、当たり前のように大好きなご飯を食べていますが、実は世界が認めた素晴らしい宝物がぎゅっと詰まっていることに、私は最近気がつきました。そのきっかけをくれたのは、私の家の窓から見える、お隣の田んぼでした。

私の家のすぐ隣には広い田んぼがあります。そこは大崎市の四季折々の美しい風景を、まるで映画のように楽しむことができるからです。春になると、田んぼにはたっぷりと水が張られます。風のない日には、まるで大きな鏡のように青い空と白い雲をきれいに映し出します。夏になると、今度はすくすくと育った青々とした稲が、夏の風に吹かれて緑色の波の

ように優しくゆれ動きます。

そして秋、一番美しい季節がやってきます。田んぼ一面がまぶしいほどの黄金色のじゅうたんに変わり、夕日に照らされるとキラキラと輝きます。やがて収穫が終わると、厳しい冬が訪れ、今度は辺り一面が真っ白な雪景色へと姿を変えます。

このように、季節ごとに全く違う表情を見せてくれる田んぼの景色は、私の心をいつも楽しませてくれます。

さらに、この田んぼにはたくさんの賑やかな生き物たちもやってきます。初夏の頃、学校から帰ると、水面をスイスイと泳ぐカモの親子を目にすることがあります。親カモの後ろを、小さな子カモたちが一生懸命についていく姿は本当に可愛らしく、見ているだけで優しい気持ちになれます。また、少し離れたところには、真っ白で細長いサギが一本足で静かに立っています。じっと水面を見つめ、器用にカエルや虫を捕まえる姿は、まるで職人のようでかっこいいです。こうした生き物たちの楽園が、すぐ目の前にあることが私の密かな自慢です。

そんな豊かな自然と美しい風景を、陰でしっかりと支えている人がいます。お隣の田んぼの持ち主である、近所のおじさんです。おじさんは、太陽が照りつける暑い日も、冷たい雨が降る風の強い日も、毎日欠かさず田んぼの様子を見にきています。長靴を履いて泥にまみれながら、細かく水の量を調整したり、熱心に雑草を抜いたりしている姿を、私は何度も目にしてきました。お米を作るということは、こんなにも手間と愛情がかかるということなのだと実感します。

学校の授業で、私たちの住む大崎市の農業が「世界農業遺産」に認定されていると知りました。そのとき、私の頭には真っ先にお隣の田んぼとおじさんの笑顔が浮かびました。世界農業遺産に選ばれた「大崎耕土」は、ただ自然が豊かなだけではありません。昔の人が水害や寒さと戦いながら作り上げた、巧みな水管理の仕組みがあります。そして何より、お隣のおじさんのように、毎日愛情を込めて土地と向き合い、田んぼを守り続けている農家の方々の努力があるからこそ、今もこの美しい景色と生き物たちが保たれているの

だと思います。

世界に誇る大崎耕土の恵みは、巡り巡って、我が家の食卓へと届いています。おじさんが育ててくれたお米を食べるたび、私はこの土地の長い歴史と、人の温かさを強く感じるようになりました。この素晴らしい大崎市の宝物を、私たちは次の世代へと大切に繋いでいかなければなりません。まずは、目の前の一粒のお米に感謝の気持ちを込め、残さずきれいに食べることです。そして、中学生になった私だからこそできることとして、この大崎市の豊かな自然と美しい食の魅力を、たくさんの人に言葉で伝えていきたいです。

中学校の部　奨励賞

より良い大崎をつくるために、私たちにできること

鹿島台中学校　1年　眞壁　ゆかり

私は、より良い大崎市をつくるために、子供たちの遊べる場、学習の場を増やすといいと思います。そう思ったきっかけは、出掛けているときに、車の窓から見えた景色が気になったことです。

くわしく話すと、夏休み中に家族で買い物のため車で出掛けていた時のことです。窓からは木や田んぼ、住宅、古いお店などしか見えず、公園のようなものはありましたが、古く子供たちが遊んでいるようには見えませんでした。もっとみんなが楽しく遊べる公園などはないのだろうかと思い、もっとにぎやかになってほしいと思いました。また、友達と遊びに行くときは家の周りにはお店が少なく、いつも古川のイオンや石巻にしか行けないからです。

なぜ、問題なのかと言うと家の周りに遊べるところがないということは、その町がにぎやかにならないからです。私の地域の公園は遊具はあるのですが

数が少ないうえ、古いものが多いです。また、遊べるのは小さい子たちしか使えない遊具ばかりです。このままでは、公園で遊べる子供も減り、私たち中学生が集まれる場所も少なく、大崎市が静かな町になってしまい、来る人が減ってしまうかもしれません。

たしかに、外で遊べなくても家で遊べるから必要ない、という意見もあると思います。しかし、外に公園ができれば外で遊ぶ子が増え、子供の体力の向上にもつながります。もっと、こういう場があれば子供同士で遊びながら学べる機会となり、大崎市の未来に良いことだと考えます。

私にできることはないかと考え、大崎市でジュニアリーダーという活動があるということがわかりました。もともと興味があったジュニアリーダーへ応募し、私はジュニアリーダーとなって今回八月の花山サマーキャンプに参加しました。花山では大崎市の各地域から参加した小学四年生から六年生までの子供たちと沢登りやカレー作り、キャンプファイヤーを行い、皆で遊びながら学ぶ機会となりました。

だから、私は自分たちで公園をつくることはできないから、このように意見を書き、伝えていきたいと思います。これからもジュニアリーダーの行事に参加します。私にはこれしかできないけれど、大崎市をよりよくするための一歩になると私は思います。

中学校の部　奨励賞

温泉とお米の旅

古川中学校　1年　菅野　英心

僕は今までに何度か家族と鳴子温泉に行ったことがある。こけし作りをしたり、鳴子ダムを見に行ったり、帰りに道の駅で栗だんごや玉こんにゃくを買ったりした。一番覚えているのは、潟沼でみた青い水とそこでボートに乗ったことだ。でもそのとき僕は大崎市が「大崎耕土」という世界農業遺産に選ばれたお米の産地だということを知らなかった。温泉やダム、潟沼のきれいさには気づいていたけど、すぐそばにあるもう一つの宝物には気づいていなかったんだと思う。この経験から大崎市の魅力をもっとつなげて伝えられないかと考えて、「温泉×グルメツアー」を提案したい。

まず午前中は大崎耕土の田んぼを見学して、季節によっては、田植えや稲刈りを体験してもらう。農家の人に、どうして世界農業遺産に選ばれたのかを聞けば、ただ景色を見るだけじゃなくて、大崎市のお米づくりについてもっと知ることができると思う。お昼には、ササニシキやひとめぼれなど、大崎市のお米で作ったおにぎりの食べ比べを楽しんでもらう。

午後は鳴子温泉に行って、僕もやったことのあるこけし作りに挑戦してもらう。そのあとは温泉に入ってゆっくりしてもらい時間があれば僕が実際に行った潟沼でボートに乗ったり、鳴子ダムを見たりできるコースもいいと思う。潟沼のとなりにあるレストランでは、ジビエ料理も食べられるので、大崎らしい食事としておすすめしたい。帰りには道の駅に寄って、ブランド米の「ささ結」や、僕がいつも楽しみにしている栗だんごを買ってもらう。外の売店では、僕がいつも買う玉こんにゃくも食べてほしい。あつあつの玉こんにゃくを食べながら帰りの車に乗るのが、僕にとって鳴子温泉に行くときの楽しみの一つだ。

このツアーができたら、観光客が増えて、お店や旅館、農家の人たちの収入にもつながると思う。それに、田んぼと温泉の二つをセットにすることで、片方だけよりずっと印象に残ると思う。春は田植え、秋は稲

刈り、冬は雪見温泉というふうに、季節ごとに違う楽しみ方ができるのもいいところだ。

今回、自分が実際に鳴子温泉で体験したことを思い出しながら、身近にある大崎市の魅力について改めて考えることができた。これからは、地元にあるものにもっと目を向けて、それをたくさんの人に伝えられるような大崎市であってほしいと思う。

中学校の部　奨励賞

より良い大崎をつくるために

わたしたちにできること

古川中学校　1年　伊藤　由姫乃

より良い大崎をつくるために、私は、三つの案を出します。

一つ目は、環境をきれいにすることです。私の学校では、チャレンジデイで、ゴミ拾いボランティア活動をしています。それを活かして、ふだんの生活でも、落ちているゴミを見つけたら、自分で拾い、近くにあるゴミ箱に捨てると、その道を通った人も、初めて歩く人も、ここちよく道を歩くことができます。少し手間がかかって、めんどくさいという人もいるでしょう。ですが、自分のした事で、大崎市の環境が良くなることは、何よりもうれしいことなのです。この理由から環境をきれいにする案を思いつきました。

二つ目は、森林を増やすことです。現在、熊の目げき情報があいついで起きています。先日、大崎でも熊の目げき情報を耳にしました。前に、家族でお出かけ

に行った時、木々をばっさいしているところを車の中から見ていました。それを見ていた父と母は、ふと、口からこんなことを言いました。

「木なんかばっさいするから熊も山からおりてくるんだ。」

と。木が無くては、机や物をつくることができません。そこで私は、一つ案を出します。木をばっさいすることは、とめられませんが、そのぶん、人工的な木を育てるのです。本で、森林を守るために、木を植えて、何年もかけて育てていることと、木からはえた枝を切る作業をしていることを知りました。なので、今の子どもたちに、枝を切る作業を体験させて、森林は、とても大切だということを教えるのです。この活動を続ければ、熊だけでなく、他の動物も、ぜつめつから助けられると思いました。この理由から、森林を増やす案を思いつきました。

三つめは、空気をきれいにすることです。今、気温がとても高くなっています。父と母から、

「昔より暑くなった。」

と、よく聞きます。テレビで、ゴミをもやしたときに出るガスと、エンジンから出るガスで空気が汚れてしまい、気温が暑くなっていることを知りました。気温を下げるためには、空気をきれいにすることです。ゴミをもやしたときに出るガスは、とめられませんが、空気をきれいにするために、車のエンジンを少しでも減らすことです。まず、車移動をさけ、歩いたり、自転車で移動をすること、歩いたり自転車移動ができない人は、駐車場に車を止める際、エンジンをかけっぱなしにするのではなく、エンジンを止めて、空気が汚れるのを防ぎます。夏は、車の中がものすごく暑いので、夏は、エンジンを止めて車の中にいるのはひかえてください。この理由から空気をきれいにすることを思いつきました。

このような、全ての理由から、より良い大崎をつくるためにわたしたちにできることについて案を出しました。

中学校の部　奨励賞

大崎市を創る宝

古川東中学校　２年　芳賀　香愛美

皆さんは、大崎の宝といえば、何を思い浮かべますか。私が考える「大崎の宝」は、二つあります。

一つ目は、人の温かさです。大崎市では、市民同士の助け合いや支え合いが多くあると感じます。自体験ですが、名前も知らない私に対して、元気よく挨拶してくださったり、「おかえり」や、「頑張ってね」などの前向きな言葉をかけてくださる地域の方々や、いつでも、顔を出したら笑顔で受け入れてくれる、保育所や小学校の先生方など、日々の生活で人情を感じる瞬間がたくさんあるからです。

二つ目は、子供や若者の活気の良さです。大崎市には、みんなで仲良く遊ぶ子どもがいたり、自分から大崎市をよりよい町にしようと、町を盛り上げたりする若者がいます。今の大崎市で問題になっているのが、少子高齢化です。宮城県は出生率が全国ワースト二位です。そのため子どもが多いとはいえません。そしてそれに伴って、高齢者が増え続けています。そんな中でも地元を元気に盛り上げようと動く若者が多くいると思います。私の学校では、学校内を盛り上げたり、まとめたりしようと生徒会長に立候補する人が多くいます。若者や子どもが少なくなっているからこそ、自分から盛り上げようという思いや、大崎市の活気を良くする行動力が大事になっています。

このように大崎市の人の温かさや若者、子どもの活気の良さなどが人と人とのつながりを向上させ、これからの大崎市の未来をつくると思います。今ある「大崎の宝」を守り続け、よりよい大崎市の実現を目指したいです。

大正デモクラシー賞

私が吉野作造について考えたこと

鹿島台中学校　1年　佐藤　愛莉

私は吉野作造について学ぶ前は、名前を聞いたことがあるだけで、どんな人なのか知りませんでした。

しかし、調べてみると、国民のことを第一に考え、よりよい社会をつくろうと努力した人だということが分かりました。

特に、「民本主義」という、政治は国民のために行われるべきだという考え方を広めたことがとても印象に残りました。

当時は、今のように国民が自由に政治へ参加できる時代ではありませんでした。そのような中でも、吉野作造は国民一人一人の意見や暮らしを大切にすることが必要だと考え、自分の思いを多くの人に伝え続けました。周りと違う考えを持ち、それを伝え続けるのはとても勇気がいることだったと思います。

それでも、自分の信じることを貫いた姿はすごいことだと感じました。

私は、自分一人の意見では何も変わらないと思ってしまうことがあります。

しかし、吉野作造のことを学んで、一人の考えでも伝え続けることで社会を少しずつ変えていけるのだと思いました。

今の私たちが選挙で代表を選んだりしたり、自分の意見を言ったりすることができる社会は、このようなすばらしい事をした人たちの努力があったからこそ成り立っているのだと感じています。

これからは、社会や政治は自分には関係ないと思わず、ニュースを見たり、家族や友達と社会の出来事について話したりしたいです。

そして、周りの人の意見も尊重しながら、自分の考えもしっかり伝えられる人になりたいと思いました。

また、吉野作造について学んで、政治は政治家だけが考えることではなく、私たち一人一人が関わっていくものだと改めて感じました。普段、ニュースを見ていても、政治の話は難しく、自分には関係のないことのように感じてしまうことがあります。

しかし、政治によって決められることは、私たちの

生活や将来に深く関係しています。学校でどのような教育を受けるか、どのような社会で生活するのかなど、身近なことも政治が関わっています。だから、分からないといって興味を持たないままにするのではなく、まずは知ろうとすることが大切だと思いました。

そして、吉野作造が自分の考えを持ち、それを多くの人に伝えようとした姿から、意見を持つことだけではなく、それを伝えることの大切さも学びました。自分と違う意見を持つ人がいること、さまざまな意見があるからこそ、自分では気づかなかった考え方を知ることができます。相手の意見を聞いた上で、自分の考えを見直したり、より深く考えたりすることも大切だと思います。

私はこれまで、社会や政治について考えることは少し難しいことだと思っていました。

しかし、吉野作造について学んだことで、一人一人が身近なことから考えることが必要なのだと分かりました。

大きなことをすぐに変えることはできなくても、相手の意見を聞いたりすることなら、今の自分でもできると思います。

これからは、ニュースで起きている出来事をただ見ているだけではなく、「なぜこのようなことが起きたのか」「自分だったらどう考えるのか」と一度立ち止まって考えてみたりしようと思いました。

そして、自分と違う意見を持つ人の考えも大切にしながら、自分の意見をしっかり持てるようになりたいです。

吉野作造が大切にした、国民のことを考え、よりよい社会を目指していくという考えを忘れずに、私も社会の一員としてできることをしていきたいと思いました。

そのためにも、まずは身近なことから少しずつ考えて行動にうつすなどして、これから行動していきたいです。